雑 報

第 18 回ヨーロッパ人類学会大会に参加して

佐 竹 隆*

日本大学松戸歯学部解剖学

18th Congress of the European Anthropological Association

Takashi Satake*

Nihon University School of Dentistry at Matsudo

要 約

第 18 回ヨーロッパ人類学会大会がトルコの首都アンカラで開催された（2012 年 9 月 3 日～6 日）。この学会に参加したのでその簡単な報告。

18th Congress of the European Anthropological Association

第 18 回ヨーロッパ人類学会大会（佐竹，2008）が，アンカラ大学（トルコの首都アンカラ）で“Human Evolution and Dispersals”をキャッチフレーズに開催された。大会長は Dr. Erksin Güleç（Ankara University）で，京都大学に留学されていた Dr. Başak Koca Özer（Anakra University）は National Organizing Committee の一人として，中心的な役割を担われていた。また，Scientific Committee の一人に諏訪元先生（東京大学）のお名前があった。大会プログラムから数えたところ，特別講演 5 題，一般口演 73 題，ポスター 111 題であった。

特別講演と口頭発表はアンカラ大学 50 周年記念ホールと講義室の二箇所，ポスター発表はホールの一箇所で行われた。例年の EAA の学会では，学会参加証を着けていると，都市交通が無料であるとか特典があったが，今回はそういったことはなかった。

特別講演の演者と演題を以下に示す。

- 1) Frayer D.W. (University of Kansas): The emergence of language in Prehistoric Europe.
- 2) Mascie-Taylor N. (University of Cambridge): From genes to latrines.
- 3) Ubelaker D. (The George Washington University): Forensic case studies revisited with contemporary perspectives.
- 4) Boldsen J.L. (University of Southern Denmark): Life before death-paleoepidemiological reconstruction of health in past communities.
- 5) Hublin J. (Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology): The first modern peopling of Western Eurasia.

口頭発表には 15 のセッションがあり，そのタイトルは以下の 10 であった。

Human evolution and dispersals
Public health, determinants, measurements and trends
Human health (Paleopathology)
Nutrition and global trends
Growth, maturation and ageing

*日本大学松戸歯学部解剖人類形態学
〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1
E-mail: satake.takashi@nihon-u.ac.jp
©2012 The Anthropological Society of Nippon

Human genetics
Human biology
Human skeletal biology
Ethical and cultural issues in anthropological research
Zooarchaeology

初日は屋外でのカクテルパーティー。中日のエキスカーションはアンカラ城見学, その後その近くのレストランにてバンケット。最終日の学会エキスカーションは, 世界遺産カッパドキアへの丸一日の旅であった。次回, 19th Congress of the European Anthropological Association はロシア (学会長: Dr. Elena Godina: Moscow State University) で開催の予定である。

日本からの参加者は私の知る範囲では, 川崎直人先生,

大学院生・富永寿人さん (近畿大学薬学部), 大学院生・東島沙弥佳さん (京都大学理学部), 成山公一先生 (大阪産業大学人間環境学部), 橋本裕子先生 (京都大学霊長類研究所), 大藪由美子先生 (奈良県立橿原考古学研究所) と私の七名であった。

謝 辞

何かとお世話になった Dr. Başak K. Özer と Dr. İsmail Özer (Ankara University) に, 深甚の謝意を表します。

引用文献

佐竹隆 (2008) ヨーロッパ人類学会. *Anthropological Science* (Japanese Series), 116: 71–76.